

株主のみなさまへ

TOWA REPORT



おかげさまで創業60周年

第55期 事業のご報告

平成22年4月1日～平成23年3月31日

 東和薬品株式会社

 60th
ANNIVERSARY

CONTENTS

ごあいさつ	1
半期の取り組み	2
トップ・インタビュー	3
ニュース&トピックス	7
業績の概要	9
連結財務諸表(要約)	11
個別財務諸表(要約)	13
会社の概況と株式の状況	14



代表取締役社長
吉田 逸郎

■ ■ About TOWA 創業60周年にあたって

平成23年6月1日に東和薬品は創業60周年を迎えました。この記念すべき年に、社内では「健全な成長、新たな飛躍」というスローガンの下、自律成長のための組織体制を強化し、本年度に完成する山形工場を含めた安定供給体制を強化し、本格的なジェネリック医薬品の需要に対応できるよう努めています。

役員及び従業員が一丸となつて新たな成長を目指します。



■ ごあいさつ

当期も計画以上の業績を達成。さらに、安定供給体制の拡充と、生産体制の確立に邁進いたします。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の第55期事業のご報告(平成22年4月1日から平成23年3月31日)をお届けいたします。

国は、「平成24年度までに、後発医薬品の数量シェアを30%以上にする」という目標に向けて、様々な環境整備を行っておりますが、昨年4月に行われた「後発医薬品調剤体制加算」の見直しには、これまでにない効果が見られ、薬局における後発医薬品割合(数量ベース)が、3月の20.3%から、12月には22.8%に上昇いたしました。4月以降、当社製品の売上も増加、納入先別売上も、保険薬局が診療所を上回りました。

当社といたしましては、将来に向けた安定供給体制の拡充を図るため、営業所の新設や、配送要員の増員などに取り組んでいるところでございます。

また、生産数量の拡大を目指して建設中の山形工場も、東日本大震災の影響はあったものの、ほぼ順調に工事が進捗しております。平成24年3月の稼働により、国内でも有数の生産体制が確立します。この投資は、当社の成長の礎と確信しておりますので、株主の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

そのような中、薬局市場の拡大、大病院との直接取引きによる売上増、当社独自の RACTAB®技術を駆使したアムロジピンOD錠

「トーワ」、ランソプラゾールOD錠「トーワ」の成長などにより、当期の業績は、当初計画を上回り順調に推移いたしました。

なお、3月に発生した東日本大震災につきましては、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。当社につきましては設備などに大きな被害はございませんでしたが、その後のエネルギー不足などの影響で、不自由な企業活動を強いられました。第55期の業績に与える影響は軽微でしたが、今後も電力供給や原材料の調達などの面での不安が続くことが懸念され、影響を最小化すべく全力を挙げて努力しているところでございます。

配当につきましては、当期業績が当初計画を上回り、連結当期純利益も数年来順調に推移していることを踏まえ、株主の皆様への支援にお応えするため、期末の配当金は当初の計画より1株当たり5.00円増配し、35.00円(第2四半期末1株当たり30.00円。年間1株当たり65.00円、配当性向19.1%)といたしました。

内部留保金につきましては、中長期的視点からの経営体質の強化、企業価値の増大を図るために、研究開発力の充実、生産能力向上・効率化のための設備投資、特に山形工場の建設、営業体制の拡充・強化などに充てさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年6月

東和薬品この半期の取り組み

大地化成株式会社の子会社化

原薬の研究に関するノウハウの取得、製剤開発用原薬の研究開発の早期着手を目的として、子会社化しました。(10月18日)

日経健康セミナー21に協賛

第2回「よく考えたい 健康とお金のフシギな関係」(10月29日大阪)、スペシャル「早めに備える花粉症 ジェネリック医薬品で節約も!」(12月11日東京)に協賛。



薬価基準追補収載医薬品、17成分22品目を新発売

新発売製品のラベプラゾールNa錠10mg/20mg「トローワ」は、何の薬かわかるように薬効を表示するなど、包装デザインを工夫しました。(11月19日)



IGPA年次総会にてスピーチを行いました。

第13回IGPA(国際ジェネリック医薬品連盟)年次総会及びワークショップ(インド・ムンバイ)にてスピーチを行いました。(12月8~10日)

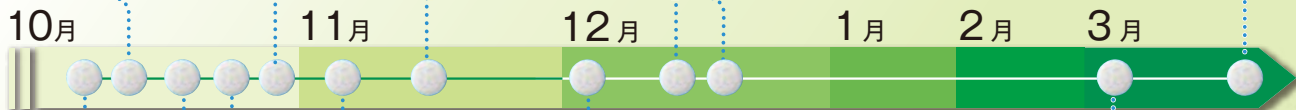


新規営業所を開設

盛岡・仙台(9月1日)、長岡(12月1日)、久留米・長崎(1月4日)、名古屋南(2月1日)、四日市・松阪(3月22日)を新規開設し、合計29営業所体制となりました。

東日本大震災に際し義援金をおくりました。

被災者の皆様方への救済活動を支援するために、3千万円を日本赤十字社を通じて寄付しました。



「消費者のためになった広告コンクール」で銀賞受賞

ジェネリック医薬品啓発広告が、新聞広告部門で銀賞に選ばれました。(10月22日)



産経新聞メディカルセミナーに協賛

薬剤師対象のセミナー「患者さんのための在宅医療とお薬手帳の啓発」(大阪)に協賛しました。(10月24日)



ランチョンセミナーの共催

第43回 日本薬剤師会学術大会(10月10日長野)、第14回 近畿薬剤師学術大会(11月7日奈良)、第20回 日本医療薬学会年会(11月13日千葉)、第31回 日本臨床薬理学会年会(12月1日京都)、日本研究皮膚科学会第35回年次学術大会・総会(12月4日和歌山)。以上の学会にて、ランチョンセミナーを共催。



アムロジピンOD錠2.5mg/5mg「トローワ」・アムロジピン錠2.5mg/5mg「トローワ」の高血圧症に対する2251例の使用成績調査

ジェネリック医薬品の信頼性向上に資するために、企業による自主的な調査として企画・実施しました。最終報告が医学総合月刊誌「医学と薬学」に掲載されました。



Top インタビュー Interview



組織の基盤を固め、

拡大するジェネリック医薬品市場に対応し、東和薬品は現在、組織体制の強化を進めています。節目となる創業60周年を迎え、東和薬品が今後目指す姿について、吉田社長が語りました。

さらなる成長を見据え、 組織の基盤を強化。

好調な業績の推移に伴い、当社の組織規模もこの5～6年で拡大し、東和薬品は今「第二次成長期」にさしかかっています。今後さらに会社が成長するためには、組織の基盤をより強化していく必要があると考えています。そのため、「東和薬品グループ企業行動憲章」や「コンプライアンス基本規程」などの内部統制システムの整備を行ってきましたが、創業60周年を迎える今年、改めて「企業理念」を制定しました（詳しくはP7をご覧ください）。従業員に対して、会社の考え方や目指すところを示すことで、目的意識の統一を図り、より堅固な組織を作り上げていきます。



“信頼される会社”づくりを進めていきます。

「付加価値」を重視した製品で信頼を獲得。

「平成24年度までにジェネリック医薬品の数量シェアを30%以上にする」という政府目標に向け、国はジェネリック医薬品使用促進のための環境整備を行っています。平成22年度に実施された「後発医薬品調剤体制加算」の改定により、ジェネリック医薬品への代替が進んだものの、目標にはまだ届いておらず、目標達成は難しいかもしれません。

しかし、高齢化に伴う医療費の増大で、少なくとも平成37年(2025年)くらいまでは市場が拡大していくのは確実と考えています。その拡大する市場の中で、「付加価値製剤」を提供し、患者さんや医療関係者からの信頼を高めて、当社独自の地位を確立することを目指します。付加価値製剤とは、薬本来の効果に加え、「飲みやすい」「扱いやすい」「視認性が良い」など



の工夫がされた医薬品のこと。それを可能にしているのが、当社独自のRACTAB[®]技術などの製剤技術や包装の工夫です。“付加価値”とは、当社の技術力から生まれるものではなく、患者さんや医療関係者など現場の要望に応え、その方々に認めていただいて、初めて生まれるものだと考えています。今後も、より多くのご要望に応え、現場に認められる工夫を重ねることで、付加価値製剤を創出していきます。



拡大する市場に対応し、安定供給体制の整備と強化を推進。

当社は大手卸を通さない、独自の直販・代理店体制をとっています。現在の規模での安定供給体制には問題ありませんが、今後の拡大する市場を見据えた安定供給体制を考えると、大手卸に負けない販売網を敷く必要があります。そのためには、代理店とのより一層の協力や営業所



の拡充など、各エリアの流通体制を整えていかなければなりません。今後、必要と判断した地域には、営業所を新設し、合計50カ所程度にしようと考えています。営業所と代理店との共存共栄を図り、緊張感を持った関係を継続しつつ、発展できるよう努力していきます。

付加価値製剤を適正価格で提供し、企業価値を高める。



「適正価格販売」は、当社として10年前から始めた施策ですが、今後もこの考え方は継続し、価値に見合った価格で製品の提供をしていきます。高品質で安価な製品の提供を目指していますが、価格のみの競争に陥ると、品質の向上が難しくなってしまうため、製品の本来の価値を下回る価格で販売するべきではないと考えています。

品質の向上が難しくなってしまうため、製品の本来の価値を下回る価格で販売するべきではないと考えています。

3工場間のバックアップ体制構築で、万全の生産体制を確保。

平成24年3月に現在建設中の山形工場が生産を開始します。大阪、岡山の工場とともに“生産部門”というひとつの有機的な組織として管理、運用するこ



とを目指し、製造設備や環境、書類様式などの標準化をすすめます。また、平時の効率だけでなく、災害時のリスク分散のために、ひとつの工場が災害で停止しても他の工場ですばやく生産が出来るよう、3工場間でのバックアップ体制も構築していきます。

信頼を深め、「東和ブランド」を確固たるものに。

「東和ブランド」を確立するためには、患者さんや医療関係者をはじめ、すべての人からの信頼を確立することが大切です。そのため、情報の収集・管理や提供の強化を目的に、数年前に医薬情報部を設置、学術部DIセンターでの医療関係者からの問い合わせ対応を24時間365日体制で行うなど、社内の体制を整備しています。医薬情報部では、ジェネリック医薬品のさらなる信頼確立のために必要と考えるデータや、東和薬品だから提供できるデータを精査し、学

会など様々な機会を通じて積極的に情報を提供していきます。

創業60周年という節目の年を迎え、「すべての人に信頼され、認められる企業を作る」という思いを新たに、患者さん、また医療関係者に認めていただける製品を、これからも提供していくよう努力を続けていきます。



中期経営計画(平成20~22年度)をふりかえって

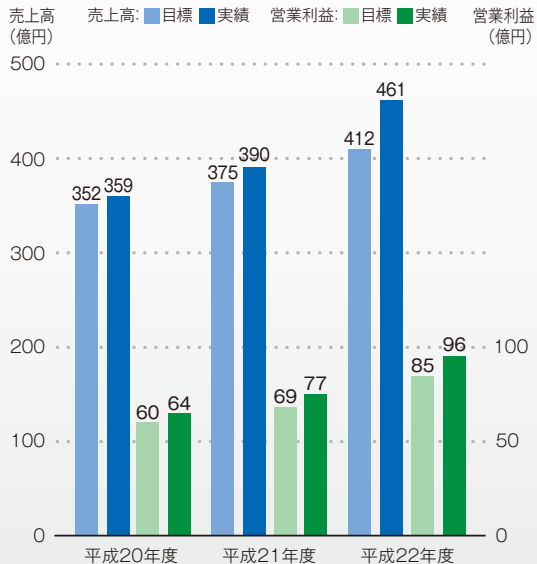
「中期経営計画」をステップに、成長の礎を築くことができました。

最終年度となった平成22年度の実績は、売上高は計画412億円に対し461億円と、約50億円の増、営業利益も計画85億円に対して96億円と、約10億円の増となり、目標数値を大幅に上回りました。

「信頼性の確立」の課題に対応するため、新たに医薬情報部を設立し、情報提供を強化。学術部DIセンターの24時間365日体制も開始しました。「診療所・中小病院、保険薬局市場の強化」という課題では、薬局市場の拡大とともに、大病院市場への足がかりもでき、基幹病院との取引も拡大。「製剤・製造技術の向上」については、RACTAB®技術など、当社の基盤となる技術を確立。現在建設中の山形工場が来年3月には生産を開始し、将来の需要増をカバーする生産の国内3工場体制が完成します。

次期中期経営計画(平成23~25年度)は、東日本大震災の影響を精査して、11月に発表の予定です。

中期経営計画数値目標・実績(連結)



従業員の意識統一を目指し、「企業理念」を制定しました。

創業60周年という節目を迎え、
会社の考え方を明示しました。

今後の会社の成長に対応するため、当社の組織も急速に拡大しています。組織の拡大や人材の多様化にともない、東和薬品の根底にある考え方を示し、柱となる企業理念の明文化が必要になってきました。そこで創業60周年を機に、これから先の当社の“あるべき姿”を企業理念として掲げることにしました。従業員一人ひとりが、この企業理念を考え方や姿勢の指針とし、組織力を高めていきたいと考えています。

社会から評価され、必要とされる
企業に成長するという決意を込めて。

当社の社会的役割は、人々の健康に寄与し、高品質な製剤を適正価格で提供することだと考えています。また“こころの笑顔”とは、心の底から沸き起こる喜びのこと。患者さんや医療関係者のみならず、株主の皆様や従業員を含むすべての方々を、“こころの笑顔”になることを目指していきたいと考えています。皆様からの「信頼」を深めるため、思いを新たに、高品質な製品を提供し続けていきます。

東和薬品の理念

私達は 人々の健康に貢献します
私達は こころの笑顔を大切にします



東和薬品株式会社

みなさまからの信頼を得ることで、ブランドの確立を目指します。

“人にやさしい工夫”で、
みなさまの思いに応えます。



東和薬品のブランドを確立するために重要なのは、みなさまからの信頼を得ること。そのために、製剤技術の面でも付加価値を加え、患者さんや医療関係者の思いに応える工夫をしています。例えば、東和薬品が独自に開発したRACTAB®技術で創造した口腔内崩壊錠（OD錠）は水なしでも服用できる「とけやすさ」と、扱いやすい「硬さ」を備え、みなさまの思いに応える工夫を施しています。東和薬品は、薬への一人ひとりの願いをかなえ、“人にやさしい工夫”で笑顔を広げていくことで、ブランドの確立を目指します。

このRACTAB®マークは、
水なしでも飲めるOD錠が、
口の中でとける様子
をイメージしています！



CMもリニューアル。笑顔を広げる、
製剤の工夫を紹介します。

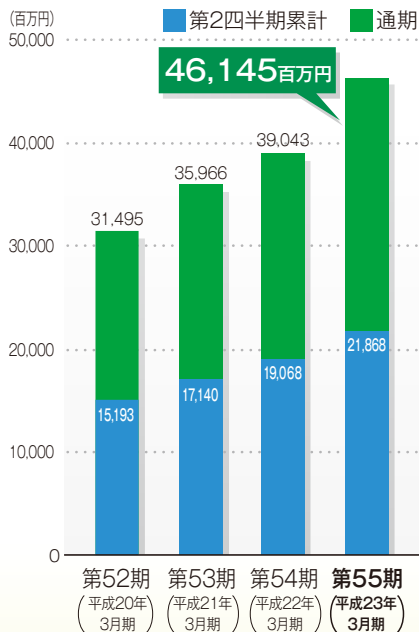
“一人ひとりの願いにこたえるくすりを提供したい”という当社の企業姿勢をコンセプトにして放送しているCM「くすりのあした研究所」を、今春一新しました。第2弾となる「くすりのあした研究所・工夫編」にも、引き続き黒柳徹子さんに、研究所の所長として出演いただいています。今作では、マスキング技術やRACTAB®技術などの、東和薬品の製剤の工夫を紹介。飲みやすさに配慮したくすりで、患者さんや医療関係者など、多くの方々に笑顔を広げていきたいというメッセージを込めています。



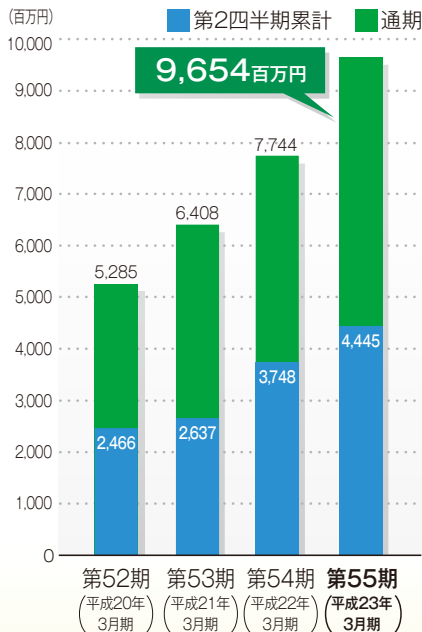
業績の概要

業績ハイライト(連結)

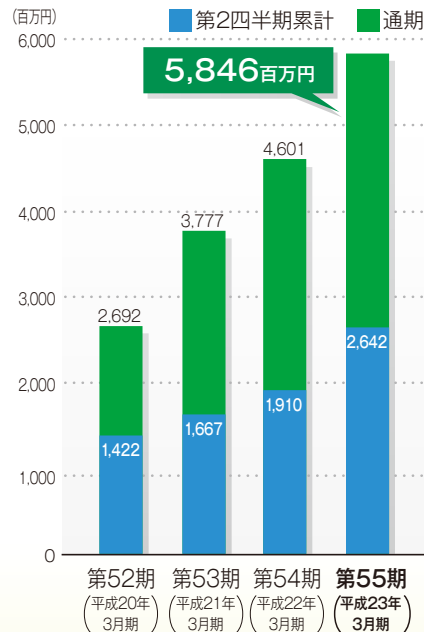
売上高



営業利益



当期(四半期)純利益



業績の概況

医療用医薬品業界では、平成22年4月の診療報酬改定で、薬価改定が行われるとともに、新薬創出・適応外薬解消等促進加算の導入や、薬局の調剤基本料における後発医薬品調剤体制加算の見直しなどが実施されました。この影響により、4月以降、後発医薬品の調剤割合の増加を図る保険薬局が多く見られ、過半数の薬局は同加算が算定可能な20%を上回っております。その一方で、まだ半数近くの薬局は20%未満であり、積極的に加算を算定しようとする薬局

と、従来どおりの調剤を行う薬局の二極化傾向が垣間見える状況となっております。

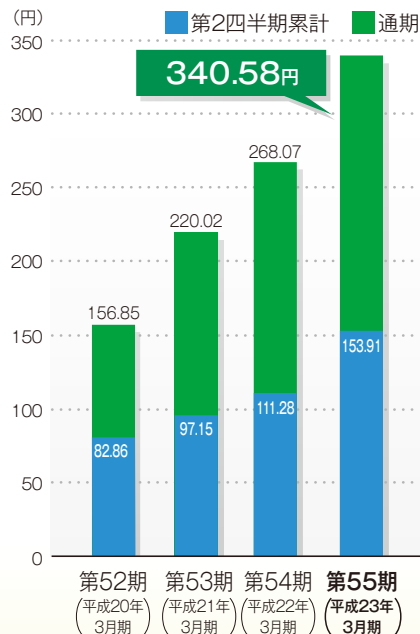
これに伴い、当社の保険薬局向けの売上も4月以降急増しました。ただ、この増加局面は一時的なものであり、その後は高い水準で横ばい傾向が続いています。当社といたしましては、安定供給体制の拡充を図るため、営業所の新設や、配送要員の増員などに取り組むとともに、病院市場、診療所市場の強化も図っているところでございます。

一方、製品別の売上につきましては、従

来品も含め幅広い製品の売上が増加しましたが、特に当社独自のRACTAB®技術を用いたアムロジピンOD錠「トローワ」やランソプラゾールOD錠「トローワ」の売上が順調に推移しました。

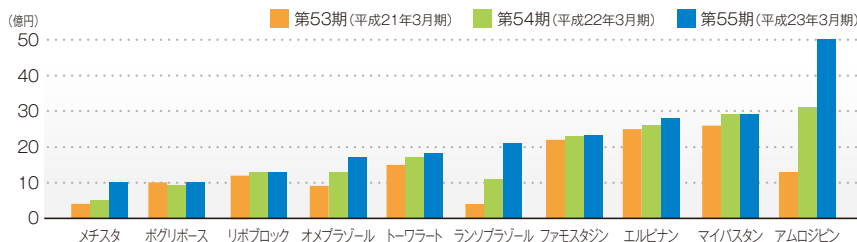
以上により、売上高は46,145百万円(前連結会計年度比18.2%増)、営業利益9,654百万円(同24.7%増)、経常利益は9,396百万円(同26.5%増)、当期純利益は5,846百万円(同27.1%増)となりました。

1株当たり当期(四半期)純利益



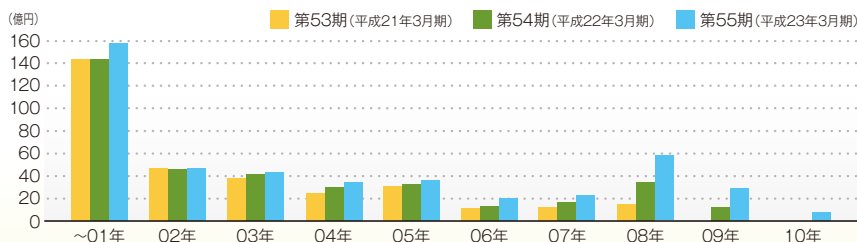
主要製品売上高推移(個別)

成分別ではアムロジピンが売上トップ、うちOD錠は72%



追補年度別売上高推移(個別)

08年追補(アムロジピンOD錠)、09年追補(ランソプラゾールOD錠)の売上が大きく増加



次期の見通し

次期の見通しにつきましては、後発医薬品調剤体制加算の見直しの影響は一巡しましたが、アムロジピンOD錠「トロー」やランソプラゾールOD錠「トロー」などの伸長に加え、新規収載品の売上寄与などにより、引き続き売上拡大を図ってまいります。また、従来どおり「安定供給」「品質確保」「情報提供」への取組強化を継続するとともに、「付加価値製剤の追求」「適正価格販売」「直販・代理店体制」といった当社独自の戦略により、新規開拓・

新規納品の拡大を図ってまいります。「直販・代理店体制」の強化につきましては、現在約30の営業所をさらに増設し、約50営業所にする計画です。生産面に関しては、東日本大震災の影響はあったものの、秋には山形工場が竣工する予定であり、平成24年3月までには同工場での生産が開始されます。同工場の稼働により、国内3工場で年間75億錠・カプセルの生産体制となります。

以上により、次連結会計年度は、売上高

51,700百万円(前連結会計年度比12.0%増)、営業利益10,300百万円(同6.7%増)、経常利益10,200百万円(同8.6%増)、当期純利益6,300百万円(同7.8%増)を見込んでおります。

連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期 (平成22年 3月31日現在)	当期 (平成23年 3月31日現在)	増減
(資産の部)			
流動資産			
現金及び預金	10,941	9,531	△1,410
受取手形及び売掛金	14,726	16,024	1,297
有価証券	—	2,000	2,000
① たな卸資産	10,841	13,480	2,638
スワップ資産	51	—	△51
その他	1,466	1,668	202
貸倒引当金	△343	△247	95
流動資産合計	37,684	42,456	4,771
固定資産			
建物及び構築物	7,277	7,178	△98
土地	6,676	6,771	95
② 建設仮勘定	3,261	10,390	7,129
その他	2,487	2,491	4
有形固定資産合計	19,702	26,833	7,130
無形固定資産合計	369	606	237
投資有価証券	2,014	1,791	△222
その他	797	1,388	591
貸倒引当金	△63	△112	△48
投資その他の資産合計	2,748	3,067	319
固定資産合計	22,820	30,508	7,687
資産合計	60,504	72,964	12,459

POINT 1

たな卸資産

工場稼働率の上昇による製品在庫の増加、生産数量拡大に対応するための購入原材料の増加などによるものです。

(単位:百万円)

科目	前期 (平成22年 3月31日現在)	当期 (平成23年 3月31日現在)	増減
(負債の部)			
流動負債			
支払手形及び買掛金	5,557	6,504	947
未払金	2,135	2,833	697
未払法人税等	1,887	2,135	248
その他	3,979	5,425	1,445
流動負債合計	13,560	16,899	3,339
固定負債			
③ 長期借入金	4,000	8,500	4,500
退職給付引当金	137	66	△70
その他	861	834	△27
固定負債合計	4,998	9,400	4,401
負債合計	18,559	26,300	7,741
(純資産の部)			
株主資本			
資本金	4,717	4,717	—
資本剰余金	7,870	7,870	—
利益剰余金	29,343	34,117	4,773
自己株式	△10	△11	△0
株主資本合計	41,920	46,694	4,773
その他有価証券評価差額金	24	△30	△55
純資産合計	41,945	46,664	4,718
負債純資産合計	60,504	72,964	12,459

POINT 2

建設仮勘定

山形工場の設備投資により増加しました。

POINT 3

長期借入金

山形工場建設資金の銀行借入を行ったことによるものです。

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期	当期	増減
	(平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	(平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	
④ 売上高	39,043	46,145	7,102
売上原価	18,793	21,348	2,554
売上総利益	20,249	24,797	4,547
⑤ 販売費及び一般管理費	12,504	15,142	2,638
営業利益	7,744	9,654	1,909
営業外収益	206	223	17
営業外費用	520	481	△39
経常利益	7,430	9,396	1,966
特別利益	0	153	153
特別損失	96	114	17
税金等調整前当期純利益	7,334	9,435	2,101
法人税、住民税及び事業税	3,019	3,559	540
法人税等調整額	△286	29	316
当期純利益	4,601	5,846	1,244

POINT4

売上高／売上原価／売上総利益

後発医薬品調剤体制加算の見直しが実施されたこと、RACTAB®技術を用いた製品の売上が順調に推移したことなどにより、売上高は前年同期に比べ、7,102百万円(+18.2%)の増加となりました。

売上原価は2,554百万円(+13.6%)増加し、売上総利益は4,547百万円(+22.5%)の増加となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前期	当期	増減
	(平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	(平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,557	5,739	△817
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,280	△7,854	△574
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,222	4,220	997
現金及び現金同等物に係る換算差額	16	△16	△32
現金及び現金同等物の増減額	2,516	2,089	△426
現金及び現金同等物の期首残高	3,425	5,941	2,516
現金及び現金同等物の期末残高	5,941	8,031	2,089

POINT5

販売費及び一般管理費

研究開発費は、平成26年頃に大型品の特許切れのピークを迎えることに加え、RACTAB®技術を利用したOD錠の開発など、付加価値製剤の開発を検討しており、前年同期に比べ694百万円と、大きく増加しました。

また、MR、配送要員、営業所間接要員の増加などに伴い、人件費は875百万円増加し、販管費は2,638百万円増加しました。

POINT6

連結キャッシュ・フロー計算書

有形固定資産の取得による支出が8,594百万円等ありましたが、税金等調整前当期純利益が9,435百万円、長期借入れによる収入が5,000百万円あったことなどにより、現金及び現金同等物は2,089百万円増加しました。

連結株主資本等変動計算書 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					その他有価証券 評価差額金	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成22年3月31日 残高	4,717	7,870	29,343	△10	41,920	24	41,945
連結会計年度の変動額							
剰余金の配当			△1,072		△1,072		△1,072
当期純利益			5,846		5,846		5,846
自己株式の取得				△0	△0		△0
株主資本以外の項目						△55	△55
連結会計年度の変動額合計	—	—	4,773	△0	4,773	△55	4,718
平成23年3月31日 残高	4,717	7,870	34,117	△11	46,694	△30	46,664

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

個別財務諸表(要約)

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期 平成22年 3月31日現在	当期 平成23年 3月31日現在	増減
(資産の部)			
流動資産			
現金及び預金	10,775	9,332	△1,442
受取手形	9,191	9,507	315
売掛金	4,975	5,887	911
有価証券	—	2,000	2,000
たな卸資産	10,668	13,286	2,618
スワップ資産	51	—	△51
その他	1,399	1,602	203
貸倒引当金	△339	△247	91
流動資産合計	36,722	41,369	4,647
固定資産			
建物	6,671	6,577	△93
土地	6,552	6,645	92
建設仮勘定	3,261	9,614	6,352
その他	2,390	2,449	58
有形固定資産合計	18,876	25,286	6,410
無形固定資産合計	366	604	238
投資有価証券	2,014	1,791	△222
その他	1,713	2,305	591
貸倒引当金	△63	△112	△48
投資その他の資産合計	3,664	3,984	320
固定資産合計	22,907	29,876	6,969
資産合計	59,629	71,245	11,616

(単位:百万円)

科目	前期 平成22年 3月31日現在	当期 平成23年 3月31日現在	増減
(負債の部)			
流動負債			
支払手形	1,068	1,041	△26
買掛金	4,352	5,321	968
未払金	2,051	2,741	689
未払法人税等	1,826	2,079	252
その他	3,881	4,647	765
流動負債合計	13,180	15,831	2,650
固定負債			
長期借入金	4,000	8,500	4,500
退職給付引当金	62	—	△62
その他	844	817	△27
固定負債合計	4,907	9,317	4,410
負債合計	18,088	25,149	7,060
(純資産の部)			
株主資本			
資本金	4,717	4,717	—
資本剰余金	7,870	7,870	—
利益剰余金	28,938	33,549	4,610
自己株式	△10	△11	△0
株主資本合計	41,516	46,126	4,610
その他有価証券評価差額金	24	△30	△55
純資産合計	41,540	46,096	4,555
負債純資産合計	59,629	71,245	11,616

損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期 平成22年4月1日から 平成22年3月31日まで	当期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	増減
売上高	37,836	44,780	6,943
売上原価	18,205	20,754	2,548
売上総利益	19,631	24,026	4,395
販売費及び一般管理費	12,049	14,639	2,590
営業利益	7,581	9,386	1,804
営業外収益	213	231	17
営業外費用	522	479	△42
経常利益	7,272	9,137	1,865
特別利益	0	151	151
特別損失	76	114	38
税引前当期純利益	7,196	9,174	1,978
法人税、住民税及び事業税	2,933	3,470	537
法人税等調整額	△261	21	283
当期純利益	4,525	5,683	1,157

株主資本等変動計算書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位:百万円)

	資本金	資本剰余金	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	純資産合計
				特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金					
平成22年3月31日 残高	4,717	7,870	399	39	23,885	4,614	28,938	△10	41,516	24	41,540
事業年度の変動額											
特別償却準備金の積立							—		—		—
特別償却準備金の取崩し				△8		8	—		—		—
別途積立金の積立					3,500	△3,500	—		—		—
剰余金の配当						△1,072	△1,072		△1,072		△1,072
当期純利益						5,683	5,683		5,683		5,683
自己株式の取得								△0	△0		△0
株主資本以外の項目										△55	△55
事業年度の変動額合計	—	—	—	△8	3,500	1,118	4,610	△0	4,610	△55	4,555
平成23年3月31日 残高	4,717	7,870	399	31	27,385	5,733	33,549	△11	46,126	△30	46,096

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社の概況と株式の状況 (平成23年3月31日現在)

会社概要

社名	東和薬品株式会社
本社	〒571-8580 大阪府門真市新橋町2-11 TEL (06)6900-9100(代表)
代表者	代表取締役社長 吉田 逸郎
創業	昭和26年6月
設立	昭和32年4月
上場取引所	東京証券取引所市場第一部(証券コード:4553)
資本金	47億1,770万円
事業内容	医療用医薬品の製造・販売 自社製品 519品目
従業員数	1,368名
取引銀行	三菱東京UFJ銀行 門真支店 みずほ銀行 守口支店 三菱UFJ信託銀行 大阪支店 日本政策投資銀行 関西支店
研究所	中央研究所 製剤研究所
工場	大阪工場 岡山工場 山形第一工場
子会社	ジェイドルフ製薬株式会社(医薬品製造販売) 大地化成株式会社(医薬品原薬・中間体の研究開発及び製造)

株式の状況

発行可能株式総数	49,000,000株
発行済株式総数	17,172,000株
1単元の株式数	100株
株主数	4,905名

大株主一覧(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
(株)吉田事務所	4,527千株	26.37%
(有)吉田興産	2,000	11.65
吉田 逸郎	856	4.98
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー・レギュラー・アカウント	491	2.86
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505044	481	2.80
ジェーピー モルガン チェース バンク 385078	479	2.79
ピクテアンドシーヨーロツパエスエー	435	2.53
東和薬品共栄会	380	2.21
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	244	1.42
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	222	1.29

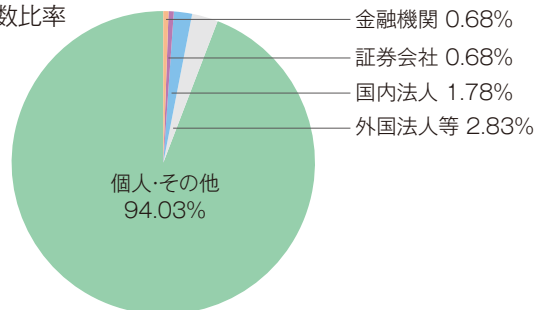
取締役及び監査役(平成23年6月24日現在)

代表取締役社長	吉田 逸郎	常勤監査役	栗原 一夫
常務取締役	播磨 武	監査役	皆木 武久
常務取締役	大澤 孝	監査役	森野 實彦*
取締役	藤本 正義	監査役	辻 弘*
取締役	藪下 啓二		
取締役	西川 義明		
取締役	野口 豪		
取締役	猪熊 俊		

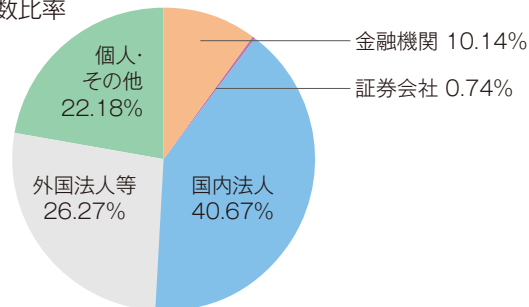
*は会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

株主分布状況

株主数比率



株式数比率



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月に開催
- 剰余金の配当の基準日 3月31日、9月30日
- 1単元の株式数 100株
- 公告掲載方法 電子公告によって行います。
<http://www.towayakuhin.co.jp/ir/koukoku.html>
但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
- 株主名簿管理人ならびに特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 (お問い合わせ先) 〒541-8502
大阪市中央区伏見町3丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
電話:0120-094-777 (通話料無料)

◎住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

口座を開設されている証券会社等にお申出ください。なお、特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

◎未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し付けください。

◎見直しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見直し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。

ホームページのご案内

<http://www.towayakuhin.co.jp>

当社のホームページでは、最新のトピックスをはじめ、企業情報や財務情報などの、株主・投資家の皆様に役立つ情報も積極的に開示しております。ぜひご覧ください。



くすりのあした研究所



5月から放送中のCMに連動したコンテンツ。笑顔を広げるくすりの工夫を紹介しています。

医療関係者の皆様へ

製品情報も充実しています。

株主・投資家の皆様へ



- 業績・財務ハイライト
- IRライブラリー
- 電子公告
- IRカレンダー
- 株式事務情報



東和薬品株式会社

〒571-8580 大阪府門真市新橋町2番11号
TEL:06-6900-9100(代表)
<http://www.towayakuhin.co.jp>
皆様からのアクセスをお待ちしております。